

DeNA

HEALTHCARE

日本テクトシステムズ株式会社

適齢診断の 「空白の3年間」に、 確かな安心を。

ドライバーの認知機能を日常的に可視化し、
重大事故を未然に防ぐ「MOGI」



高齢化・人手不足問題に向き合い、運転寿命の延伸を目指す

NASVAの診断だけで十分と言えますか？

3年に1回の運転適性診断（NASVA等）は義務ですが、人の健康状態は日々変化します。

- ❗ 3年前は問題なかったが今は…？
- ❗ 加齢による判断力の低下
- ❗ 疲労蓄積による認知機能への影響

この「空白の3年間」のリスク管理こそが、これからの安全対策の新基準です。

NASVAの補完ツールとして最適解



脳健康チェックツール



義務化されている診断の「間」を埋め、定期検査で脳健康状態を
「見える化」するシステムです。

MOGIが選ばれる3つの特徴



公的に認められた システムと同等の内容

警察庁での採用実績がある
検査手法をベースに開発。



科学的根拠に基づく 評価指標

医療機関で広く活用されている神
経心理検査MMSE-Jと強い相関性
を確認。



現場に負担のない 操作性

高齢ドライバーでも直感的に使い
えるタッチパネル操作。

Feature 01: 確かな検査内容

単なるゲームではありません

MOGIは、公的機関で採用実績のある検査手法をベースに開発されています。

医学的な知見に基づいたチェックツールであり、認知症疾患医療センターでも導入実績があります。

運行管理者様も安心してドライバーへ受検を推奨していただけます。

- ✓ 信頼性： 専門機関の知見を活用
- ✓ 妥当性： 公的検査に準拠



Feature 01: 確かな検査内容

高齢者講習 タブレット式認知機能検査の体験アプリ

MOGIは、全国都道府県警で導入されている

タブレット式認知機能検査システム「MENKYO」と同じ内容のアプリ

100点満点の採点結果を表示

※「MENKYO」も日本テクトシステムズ株式会社が提供しているシステム

32都道府県で導入（2025年時点）



Feature 02:科学的根拠に基づく 評価指標

<点数の解釈> 2025年臨床試験により

MOGI 点数	0～35点	36点～61点	62～100点
MMSE 点数	<u>23点以下 相当</u>	<u>24点～27点以下 相当</u>	<u>28点以上 相当</u>
MMSE 点数解説	<p>認知症の恐れがあります。</p> <p>認知症であるかどうかについては、医師による診断によります。医師やご家族にご相談されることをお勧めします。</p>	<p>認知機能低下の疑いがあります。</p> <p>認知機能は、ストレス、睡眠状態などの生活習慣の影響を受けるといわれています。日常生活を見直し、再度認知機能チェックを受けてみてはいかがでしょうか。もしご気になるようでしたら、かかりつけ医(または専門医)や自治体窓口への相談してもよいかもしれません。</p>	<p>認知機能の低下は認められませんでした。</p> <p>認知症を予防するために、生活習慣を見直しつつ、早期対応を目指して、定期的に認知機能チェックを受けることをお勧めいたします。</p>

※の結果表示は、健康状態の診断や医療面での指導その他の医業、疾病の診断、治療若しくは予防、又は医薬品の処方若しくは食品・サプリメント等の提案を目的としたものではありません。

※筆記回答が不明瞭である場合など、文字認識の精度が低下し、誤答として点数が低く評価される可能性があります。

※MOGI得点からMMSE得点への換算は、これらの相関性を基に導き出された近似式を用いて算出しています。

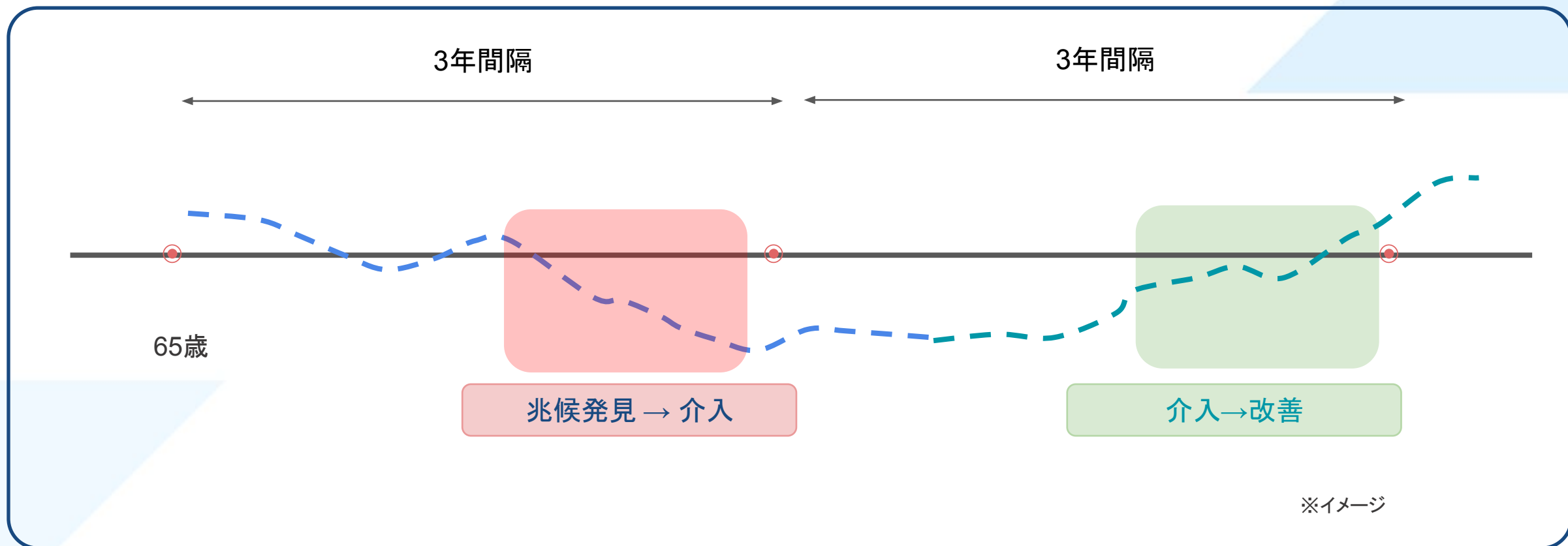
((論文: September 25, 2025) Validation of a Cognitive Self-Assessment Tool Simulating Japan's Official Digital Test for Older Drivers. Cureus 17(9): e93231.)

※「MMSE点数の解説」は、本間昭医師(日本認知症ケア学会元理事長・老年精神医学会元理事長)の監修によるものです。

Feature 02:科学的根拠に基づく 評価指標

主観ではなく、データで変化を捉えます。

認知機能は、生活習慣など早期ケアをすることで約45%が改善されることが報告されています。



定期的なチェックにより、個人の通常状態からの逸脱（体調不良や認知機能の低下傾向）を早期に発見し、事故防止に繋がります。

Feature 03: 現場に負担のないシステム



ドライバー様



直感的なタッチ操作

IT機器に不慣れな高齢ドライバーでも簡単に回答可能。運転前や休憩時間のわずかな時間で完了し、業務の妨げになりません。



管理者様



クラウド一元管理

全ドライバーの結果を管理画面で確認。経年変化の推移も分かり、要注意者へのケアのきっかけとなります。

導入後の運用フローイメージ

MOGIは原則「罰則ツール」ではなく、「**従業員を守るケアの仕組み**」として運用します。

1. セルフチェック(従業員)
定期的にMOGI実施

2. データ蓄積(システム)
結果を管理画面に自動記録




3. 傾向把握(管理者)
スコアの「変化」や「低下」の兆候を把握

4. 1on1面談(産業医 or 管理者 等)
「体調確認」として面談

5. サポート(産業医 or 管理者 等)
業務負荷の軽減、健康相談

6. 安全の実現(結果)
リスク予防、安心して業務に従事

導入の3大メリット

-  **事故リスクの低減** 認知機能の変化を早期に発見し、適切な配置転換や指導を行うことで、重大事故を未然に防ぎます。
-  **企業の信頼性向上** 「科学的根拠に基づいた安全管理」を行っている企業として、荷主様への強力なアピール材料となります。
-  **運転寿命の延伸** 年齢だけで判断せず、客観的指標として活用し、またドライバー自身の健康意識を高め、長く安心して働ける職場環境づくりに貢献します。



MOGIを利用するための準備

タブレットはiPadのみの対応となります。

iPad、AppleIDはご契約者さまにてご準備をお願いいたします。

MOGIを利用するにあたりインターネット環境が必要になります。



iPad



Applepencil



ヘッドフォン

ネット環境



MOGI料金形態



タブレット式認知機能検査「MOGI (モギ)」

ライセンス料

サブスクリプション
3万円／月

1端末あたりの料金

何回でも利用可能

端末等はユーザー様でご手配

管理サイト開発費

オプション
～20万円／初回

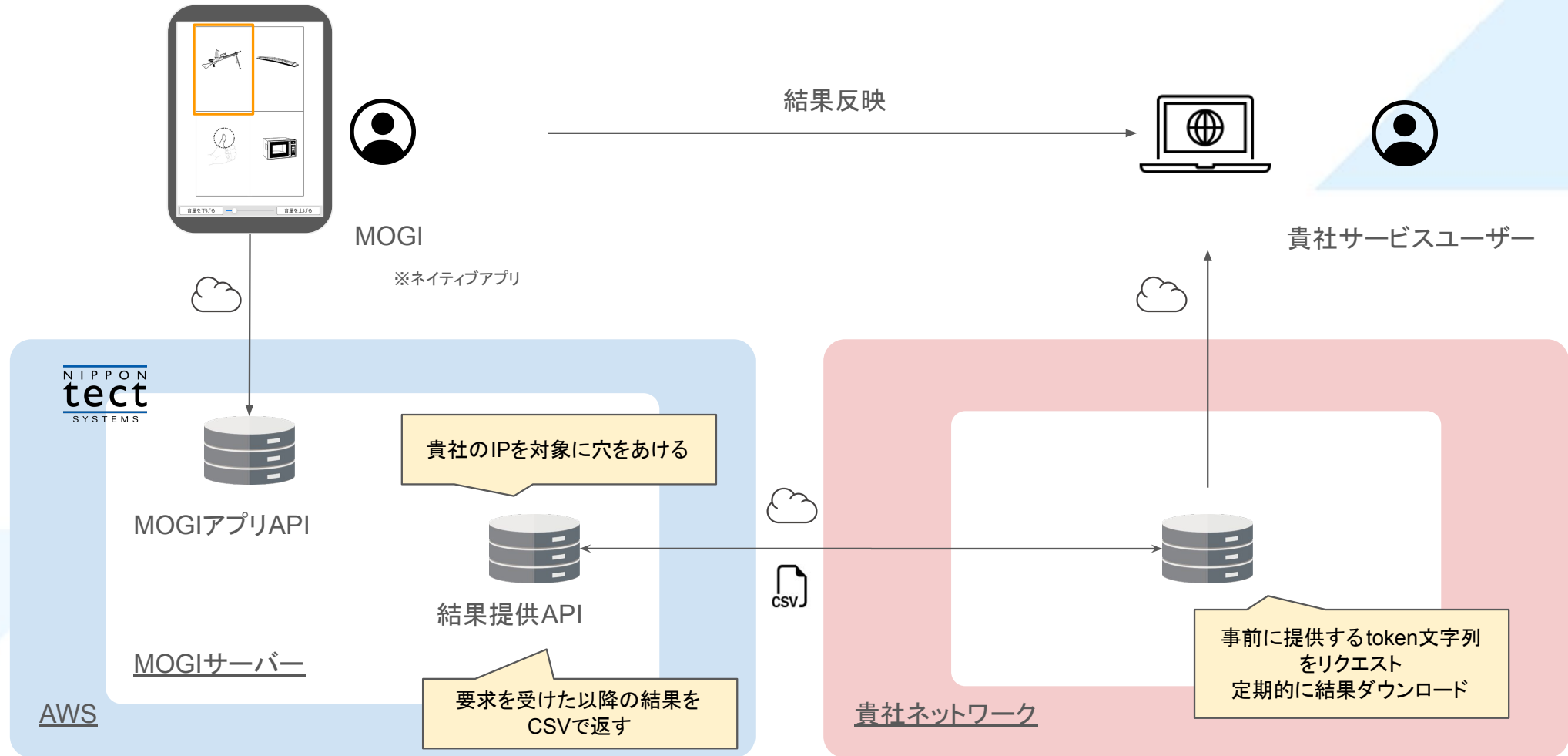
貴社専用ブラウザサイト

利用者の結果を一元管理



専門管理サイト

MOGIとのデータ連携 開発イメージ



MOGI導入事例

カーディーラー様、シルバー人材センター様

シニアの免許更新時認知機能検査体験ができる場の提供として、
また集客ツールとして展開。イベント利用など

物流・運輸企業様

ドライバーの運転機能／認知機能を定期チェック
従業員を長く働ける環境を作り、運転寿命の延伸を目指し展開

健康診断施設様

同施設 認知機能検査項目として活用

認知症疾患医療センター様

同施設 もの忘れ外来受診プレクリーニングとして常設
運転事故リスク指標の研究としてもデータ収集